



## 新型コロナウイルス感染症流行に思うこと

広島赤十字・原爆病院 山崎 正弘

新型コロナウイルス感染症の広島県における感染拡大は、この原稿を執筆しています5月の連休数日後の時点で、かなり制御されているように見受けられます。連休の影響が判明するのが5月中～下旬と思われるのでまだ油断はできませんが、とりあえず想定された悪い状況は回避できているようです。感染症指定医療機関・協力医療機関の医療スタッフの方々、行政の方々、軽症者受け入れを了承して下さったホテル関係者など、すべてに対して感謝です。このたびの新型コロナウイルス感染症流行の社会状況をみて、思うことを綴ってみたいと思います。

政府の新型コロナウイルス感染症対策は、いろいろ言われてはいますが、周囲に脚を引っ張られている割によくやっていると思います。他国からの入国制限のタイミングは明らかに遅かったですが、春節前に入国制限を行えたかといえ、当時まだ日本人は平和ボケ状態でしたので、反対派の妨害にあって不成功に終わったように思います。医療者の間でも意見が割れていたようですし。その後は程よいタイミングで非常事態宣言を行い、企業・個人への給付金支給を整備し、マスクを送付し(買い占められていたマスクを市場に放出させる効果もあったようです)、アビガン®の早期承認を促進したりなど、各省庁の抵抗に屈さず前に進めたのは評価すべきではないでしょうか。しかし将来を見据えた場合、問題に迅速に対応するためにはやはり日本にも大統領制が必要と思いました。なお今後、アビガン®に効果がないとか新たな副作用が発覚した場合は、政府批判の材料にされ、製薬会社もバッシングされます。われわれはそれに同調しないよう注意する必要があります。イレッサ®の二の舞はご免です。広島県知事もいろいろ言われていますが、予算が無いなかでちゃんと行動されていると感じます。県民に不要不急の外出を控えるように呼び掛ける映像は効果があったと思いますし、撤回はされましたが、県職員の給付金の受け取り分を新型コロナ

ウイルス対策費に充てるアイデアは、感染症診療に当たっているスタッフに危険手当を支給するという前提であれば理にかなっているように思います。国難時には公的視点からの発言・行動ができるところが日本人の良さだと思っています。何でもかんでも批判、批判は日本人らしくないですね。

私はあまりテレビを見ませんが、インターネットやTwitter、メールなどでテレビの報道の情報が回ってきます。まあ、その情報はうんざりする内容が多いです。テレビの報道は、新型コロナウイルス感染症に対する注意喚起、手洗い・うがいの重要性、マスク装着の意義、人との間に距離を取ることの重要性を国民に周知させるのに大きな力を発揮したと思います。しかし一方で、情報番組やニュース番組で、PCR検査を増加させることに異常に執着したり(インタビューを受けた医師が、編集により答えた内容とは真逆の報道をされたこともあったようです)、抗体キットの使用を推進する発言が目立ったり、新型コロナウイルス感染症治療施設のスタッフに感染者が出ると問題にしたり、他国の状況と比較すると成功例というべき政府の感染症対策を無理やり失敗例にしようとしたりなど、まあ、無責任な情報(というより思惑)をたれ流したりしているわけです。日本国の公共電波を使用している限りは、国難のときくらい骨太の役立つ情報を提供していただき、国難をバラエティー化するか、政権批判の道具にするといった、美しくない報道は厳に慎んでいただきたいです。

日本国民のうち50～60歳代またはそれ以上の年代はテレビの影響を受けやすいといわれています。テレビはあまり見ない、新聞も取っていないというひとも増えてきているようですが、オールド・メディアからの情報の取得には、論文を読むが如く、「批判的に」読み解く習慣が必要だと改めて感じられた次第です。だまされないように、道を誤らないように、われわれも注意したいところです。